

彫刻の森美術館

日本初の野外美術館

周 囲を山々に囲まれた、7万㎡の広大な庭園に、国内外の近・現代を代表する作家の彫刻作品120点を常設展示している。四季の自然を楽しみながら、屋外の作品群をじっくり鑑賞しよう。

0460・82・1161 箱根町二ノ平1121 箱根登山鉄道彫刻の森駅から徒歩2分 入館1600円 9時~17時(入館は16時30分) 無休 4000台



教えてくれるのはこの人

屋外作品は、天気や季節によって様々な表情を見せてくれます。子どもが遊べる作品や掛け流しの天然足湯も人気ですよ。2015年3月にリニューアルオープンした館内カフェもチェックして!

彫刻の森美術館 福岡さん

1 319点のピカソコレクションを順次公開するピカソ館
2 子どもに人気の遊べる作品「ネットの森」
3 屋外展示場にはスケールの大きな作品が並び



Best 3

バラエティに富むコレクションで知られる2つの美術館。数多い名作の中でも、美術館のスタッフが是非とも鑑賞してほしい作品をご紹介します!

1 『バルザック』 1891-98年 オーギュスト・ロダン

19世紀フランスを代表する小説家バルザックの記念像として制作された作品。フランス文芸家協会から発注され、約7年間で費やし制作された作品だが、当時は「溶岩」「失敗作」などと酷評され、受け取りを拒否されたという。

Fukuma's EYE
バルザックが深夜にガウンを着て悩みながら執筆にあたるようにする像を制作しました。ロダンは人間の内面表現を追求しました。

2 『ふたつに分けられた横たわる像:カット』 1979-81年 ヘンリー・ムーア

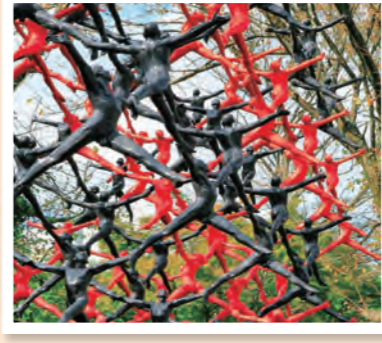
ヘンリー・ムーアは、自然の中から見つけた石や木、貝殻などの形からヒントを得て、人体が横たわる姿の作品を数多く制作した作家。2つに分割された作品の隙間から背景が見え、周りの景色全体を作品に取り込んでいる。

Fukuma's EYE
彫刻は野外の芸術と考えたムーアは、美しい建物の中よりも、どんな風景であっても、風景の中に彫刻を置きたいと語っています。

3 『交叉する空間構造』 1978年 後藤良二

黒い男性像と赤い女性像が各72体、合計144体の群像が四肢を伸ばし、お互いに手足をつなぎ連なっている作品。ダイヤモンドの分子構造を母体として4本の手足を持つ炭素原子を、人体に置き換えて構成したもの。

Fukuma's EYE
近くで見ると男性像と女性像による具象の世界、離れてみると幾何学的な形態の抽象の世界がみえてきます。



お洒落な車輛の「スカイライト」で運行

広い窓から箱根エリアの景観を楽しめる

2館めぐりがお得なワケ
2館を結び観光施設めぐりバスで移動もラクチン
彫刻の森美術館とポーラ美術館を片道約20分で結ぶ「観光施設めぐりバス」を利用すれば、2館めぐりがとっても便利! 15分~20分間隔で運行。運賃は340円(子供170円)。

名作

美術館スタッフがオススメする



1 『レースの帽子の少女』 1891年 ピエール・オーギュスト・ルノワール

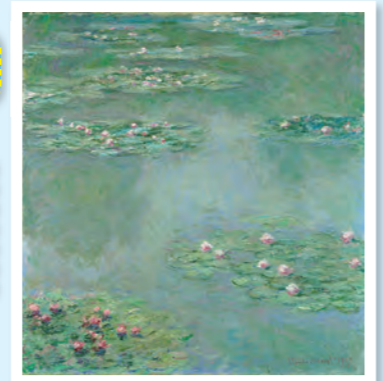
ルノワールは印象派の画家のなかでも肖像画を得意とし、当時流行していたファッションに身を包んだ女性像を多く描いた画家。白い帽子の清々しさは、夢見のような表情を浮かべた少女を一層魅力的にみせている。

Shimura's EYE
仕立て屋とお針子を父母に持つルノワールは、女性のファッションが身近な環境で育ちました。女性を描くとき、衣服にもとても注意を払っています。

2 『睡蓮』 1907年 クロード・モネ

モネは風景を得意とした印象派の画家。最も有名な『睡蓮』の連作は、200点もの膨大な数にのぼる。朝や夕方などの時間帯、晴れや曇りなど異なる天気のもとで描くことによって、水面に映る光や空が変化する様子を描こうとした。

Shimura's EYE
モネは日本に強い興味を持っていました。300点ほどの浮世絵をコレクションしていたほか、『睡蓮』の舞台となった自宅の池には、柳、竹、桜などが植えられていました。



3 『アザミの花』 1890年 フィンセント・ファン・ゴッホ

ゴッホが亡くなる直前に滞在した、パリ近郊の村オーヴェール=シュール=オーワーズで描かれた作品。最晩年を過ごした医師の家で描いた、数点の野花の静物画のなかの貴重な1点である。

Shimura's EYE
テーブルや花瓶を区切る輪郭線からは、ゴッホがパリで熱心に収集した浮世絵の影響が感じられます。ゴッホらしい大胆な色彩や筆遣いなどがみどころです。

入館チケットの半券提示で割引に
一方の美術館の半券チケットを、もう一方美術館の販売窓口で提示すると、大人200円、大・高・中・小学生100円の割引サービスが受けられる。実施期間は2015年4月25日~9月27日。
土曜日は小中学生が無料
彫刻の森美術館とポーラ美術館では、毎週土曜日は、小・中学生の入館がなんと無料に(通常は700~800円)! 週末は、巨匠たちの見事な芸術作品と触れ合う絶好のチャンス!
※彫刻の森美術館は保護者名につき小中学生の半券提示が必要

ポーラ美術館

印象派コレクションが充実

箱根の自然と美術の共生をコンセプトに作られた美術館。フランス印象派の作品を中心とした、西洋絵画や陶磁器、化粧道具まで展示内容は幅広い。定期的に入れ替わる企画展にも注目だ。

0460・84・2111 箱根町仙石原小塚山1285 バス停「ポーラ美術館」から徒歩すぐ 入館1800円 9時~17時(入館は16時30分) 無休(展示替えによる臨時休館あり) 1633台

教えてくれるのはこの人

モネ・ルノワールは国内最多のコレクションです。珠玉の西洋絵画の数々を箱根でご覧いただけます。晴れた日は、自然光が溢れるガラス張り建築や屋外遊歩道散策が気持ちいいですよ!



ポーラ美術館 志村さん



1 落ち着いて作品の鑑賞ができる展示室 2 木立の緑に包まれたブリッジを通過して入口へ 3 吹き抜けのエントランスに柔らかな光が振りそそぐ



3